

うつ治療に rTMS

反復的な磁気刺激で症状改善

平松記念

中央区の平松記念病院（宗代次理事長、傳田健三院長・228床）は、うつ病治療に反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS療法）を導入した。従来の薬物療法では症状のコントロールが難しい中等症の患者に対する入院集中治療に加えて、認知行動療法などの治療との併用で症状の改善を図っている。

同病院は精神療法、薬物療法、デイケア、作業療法、カウンセリング、栄養指導などに加え、環境調整や社会的資源の活用で、診断から治療、リハビリテーション、在宅療法まで幅広い精神科医療を展開している。

うつ病に対しては、「難治性うつ病外来」も開設し、専門的な治療を行っているが、薬物療法で症状のコントロールが難しい患者の治療が課題となっていた。

導入した rTMS 療法は、2019年6月に保険収載された治療法。専用機器を使い、脳の特定部位に反復的な磁気刺激を与えることで、神経可塑性（脳内の神経の柔軟さ）に変化が生じさせ、抗うつ効果が期待できる。

「今後は大学病院でに留まっており、この経験で、医師としての病気の怖さをわかって研ぎ澄ませてきた」といえない患者がまだまだ武器に地域医療に貢献したい」と現状を危惧気込む。

うつ病に対しては、「難治性うつ病外来」も開設し、専門的な治療を行っているが、薬物療法で症状のコントロールが難しい患者の治療が課題となっていた。

導入した rTMS 療法は、2019年6月に保険収載された治療法。専用機器を使い、脳の特定部位に反復的な磁気刺激を与えることで、神経可塑性（脳内の神経の柔軟さ）に変化が生じさせ、抗うつ効果が期待できる。

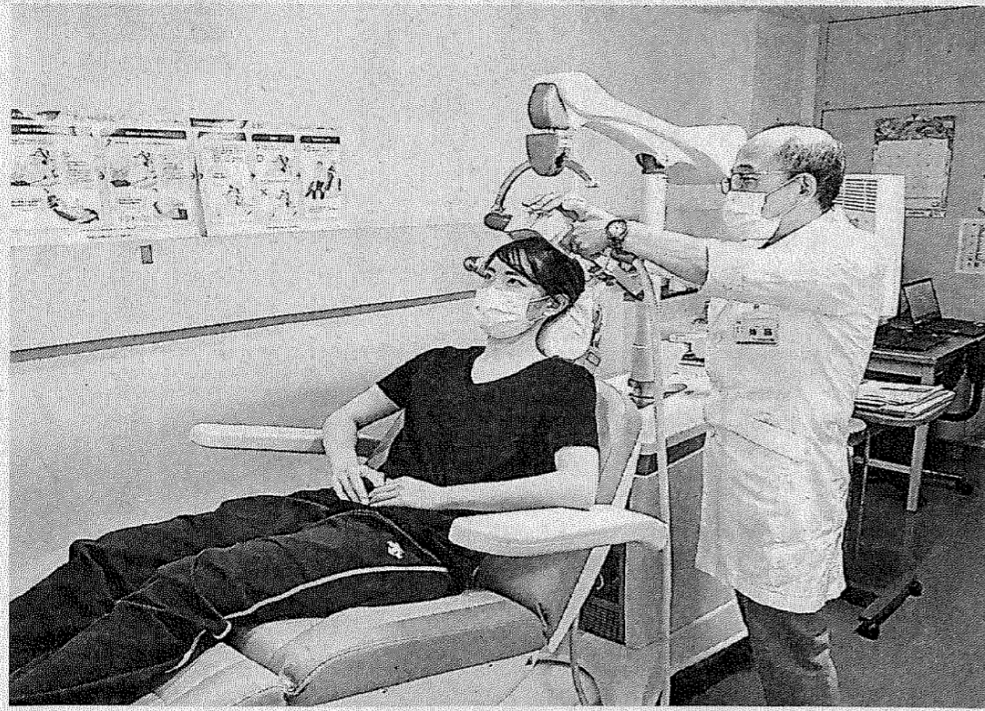
対象患者の3割に効果がみられるといわれているが、同病院で治療を受けた6人の患者は全員に症状の改善がみられたという。入院中の時間を有効活用するため、抗うつ薬、集団認知行動療法なども併せて実施しており、傳田院長は、「十分な効果を得るには、さまざまな治療を併用することが重要」と成果を強調する。



1回の治療は1時間ほどで済む

地域医療担う

高齢化が加速するメラ。日大2009年博中、心不全の患者は全卒。科的に増加傾向にある。小樽市住ノ江1丁目8番16号



1回の治療は1時間ほどで済む

こうしたさまざまな治療の併用が好評で、うつ病治療を希望する患者が増加し、入院患者の多くがうつ病患者となっている。rTMSの治療効果に満足した患者による口コミが、治療中の患者のモチベーションアップにつながっている例もあり、「相乗効果でよりよい治療環境が整いつつある」と話す。